

多くの人にささえられて

小学2年 湯本 穂乃

「じじは、じいじ。」

二年生になって、はじめての六時間じゅぎょうの日、わたしは、つかれて、とてもおくまでねす「してしまいました。でん車からとびおりたけれど、どうしたらよいかパニックになっていると、年ばいの女せいがやさしく声をかけてくれました。その方は、お母さんにでん話をしてくれて、もよりのえきまでおくってくださいました。でん車の中で、楽しくお話をしていると、気もちがおちついてきました。

えきについて、おれいを言うと、

「「ちら」そ、ありがとう。おしゃべりができて、とてもたのしかったですよ。また、会えるとよいね。」

とその方は、おっしゃいました。

自分の時間をけずってまで、わたしをたすけてくれたのに、ぎやくにおれいを言うなんて、す「いなと思いました。わたしも、この方のように、人を思いやれる、やさしい人になりたいとつよく思いました。それから、わたしは、お年よりの方がおもたそうなにもつをもっている時に声をかけたり、赤ちゃんをつれたお母さんにせきをゆずった

りしています。

学校でも、「みんな生かし合い生かされ合っている」というぶつ教のおしえを学んでいます。このけいけんから、わたしは、お父さんやお母さん、先生やお友だちなど、身近な人だけでなく、本当はもっと多くの人に支えられていることに気づきました。だから、あらゆることにかんしゃしないといけないと思いました。そして、自分もこまっっている人をたすけ、しょうらい、みんなのやくに立てる人になりたいです。